

# 最後までハッスル

## 中津市三光で泥田バレー



泥水を跳ね上げながら奮戦する選手たち②  
日午後、中津市三光佐知、撮影・椎原新二

## 「涙雨」の中、出場枠増やし90チーム

中津市三光名物の「泥田バレーボール大会」が2日、佐知地区の田んぼであった。泥田バレーの元祖として全国各地で同様の大会が開かれる先駆けとなったが、主催する地域おこしグループ「竹馬会」（佐賀一彦会長）の高齢化により25回目の今回がファイナル。名残を惜しむような「涙雨」が降る中、90チーム・約800人が出場して最後の大会を楽しんだ。

78の募集枠に126チームが応募、最終回ということとで枠を増やした。三光特産のモモ、ムギ、キクなどの名を付けた6コートに分かれ、予選リーグ、決勝トーナメントを戦った。東京の製菓会社は若手社員18人がバスで駆け付け、「思い切り泥まみれになりたい」とハッスル。そわいのTシャツ姿もあれば、キヤラクター、バニーガール、かつら姿といった仮装のチ

## 「続けてきて良かった」

ームも。選手や応援団は試合の合間にパーベキューを楽しみ、写真愛好家はシャッターチャンスを狙い続けた。

3位に終わった25回連続出場の「なしか」（玖珠町）の松岡泰之監督（45）は「仲間との絆が深まった」と感慨深げ。初優勝した「傾奇者」の北坂亮さん（26）は「中津市は「有終の美を飾れてよかった。仲間と打ち上げて美酒を飲みたい」と喜んだ。

長崎県志岐市の「チームKizuna」は竹馬会からノウハウを教わり、今年5月に泥田バレー大会を始めた。竹馬会のメンバーも参加して交流を深めており、代表の篠崎美智子さん（58）は「私たちも長く続けたい」と意気込んだ。

竹馬会の相良卓紀事務局長（57）は「ごみを持ち帰るなど参加者のマナーが良かった。楽しんでる姿に私たちが力をもらえた」。佐賀会長（56）は「25年目で初めて雨が降ったが、無事に終わりホッとしている。いろんな人から「ありがとう」「お疲れさま」と声を掛けてもらった。ここまで続けてきて良かった」と話した。

（三浦誠二）



## 有終「泥まみれ」

惜しまれつつ最後の泥田バレーボール大会。泥の中とは思えない機敏な動きで熱戦を繰り広げる選手たち②日午前、中津市三光佐知、撮影・椎原新二（21面に関連記事）